



「持続可能な働き方」へ — SDGsで考える私たちの労働

11月23日は「勤労感謝の日」です。勤労を尊び、生産を祝い、互いに感謝しあうこの日に合わせて、今月は私たちの「働き方」について考えてみましょう。

■ 「勤労感謝の日」とSDGs目標8「働きがいも 経済成長も」

SDGsには、目標8「働きがいも 経済成長も」が掲げられていますが、働き方に関する課題は、日本のSDGs評価において「深刻な課題」とされている「ジェンダー平等」や、「すべての人に健康と福祉を」とも密接に関連しています。

単に長く働くことや経済的な成長だけを追求する時代は変わりつつあります。いま世界中で求められているのは、働く人全員が健康で、多様性を認め合い、やりがいを感じられる「持続可能な働き方」の実現です。



■ 恩納村の労働者の特徴

観光リゾート地として発展してきた恩納村では、第3次産業（サービス業）に従事する方が多くいらっしゃいます。それに加え、農業・漁業などの一次産業や、OISTをはじめとする学術・研究分野まで、多様な仕事が村の暮らしを支えています。10年前と比べると、大型宿泊施設が多く開業し、村内で働く人の数も増加しています。

多くの観光客を迎える恩納村だからこそ、働く人々が過度な負担で疲弊することなく、地域で生き生きと暮らし続けられる環境が欠かせません。

■ 新しい豊かさの基準「ウェルビーイング」

持続可能な環境を作るために、いま注目されているのが「ウェルビーイング (Well-being)」という考え方です。これは、身体的、精神的、そして社会的に、すべてが満たされた幸福な状態を言います。働く人のウェルビーイングが高まることは、家庭や地域の活力にも直結します。

では、どうすれば職場や地域のウェルビーイングを高められるのでしょうか。その一番の近道は、日々のちょっとした「声かけ」や「雑談」です。「最近どう?」「何か手伝えることある?」といった気軽なおしゃべりが、お互いの状況や想いを自然に共有し、気持ちを理解し合うきっかけになります。仕事の指示や報告だけでなく、日頃から思いを気軽に交わし合える温かい関係づくりが、安心して自分らしく働ける環境を育みます。



■ 今日から実践!ワンアクション

持続可能な働き方は、社会の制度だけではなく、私たち一人ひとりの意識や優しさから始まります。

- お店、地域の作業、福祉施設や家族など身近な「働く人」へ感謝の言葉を伝えよう
- 村の特産品やサービスを選んで消費し、地域経済を応援しよう
- 職場や家庭でお互いの状況や想いを共有し、サポートし合える環境づくりを意識しよう

お問い合わせ:企画課 ☎966-1201